

市民協働と地域ソーシャル・イノベーションの創出 ～富山県舟橋村における取組事例～

富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門 碓谷研究室

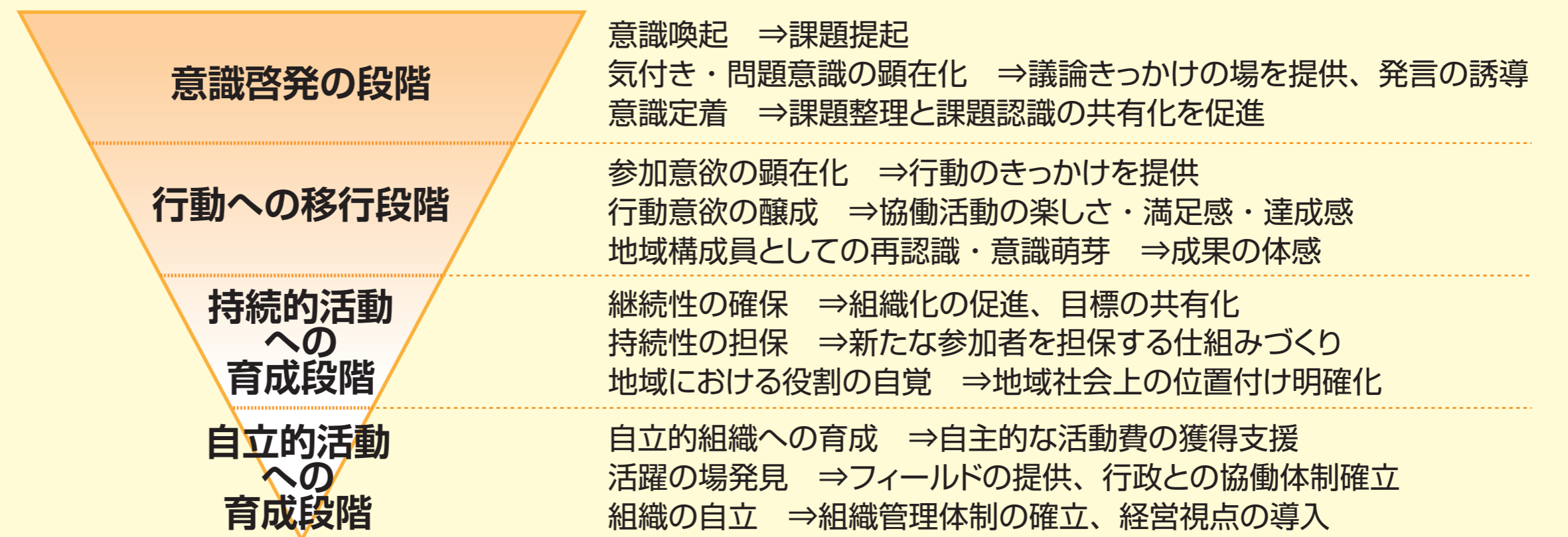
概要

富山県舟橋村は、“協働型まちづくり”を理念に掲げ、住民による自発的地域活動組織を育成することで、その推進を図っている。住民側の理解と意識啓発は欠かせないが、個で終わるのではなく、住民の中に核となる牽引組織が生まれてこない限り、「協働」を推進することは困難である。つまり、行政と住民の協働と同時に、住民同士の協働が活性化する必要がある

本事業は、住民の意識啓発から実践活動への誘導、組織づくりに向けた試みにより、一般住民が主体的プレイヤーとなって活動を担っていく地域社会の有り様を探求すること。これを通じて、地域社会の活性化に資する社会システムの創出を目指している。

住民の意識啓発と組織育成

住民組織育成ステップの仮説



本事業では、住民組織の育成にあたり、「意識啓発」「行動への移行」「持続的活動への育成」「自立的活動への育成」と大きく4段階のステップによる仮説を立て、組織育成を目指している。

H21年度の取組み

まちづくり塾とまちづくりワークショップ ～「第4次総合計画」策定に向けた住民提言～

本事業では地域の特定テーマを抽出して取組むが、平成21年度は次年度に控える「第4次総合計画」策定を契機に、住民視点で地域課題を検証することに取組んだ。

取組の狙い

総合計画策定を契機として、まちづくりへの意識喚起と住民による議論深耕とともに、住民提言によって総合計画への住民意見の反映を目指す。また、これによって地域が共有すべき課題が整理されることを狙いとする。

【ふなはしまちづくり塾】

日時：平成21年12月7日 19:00～21:00

参加者：舟橋村住民 約50名

テーマ：『総合計画策定に向けて地域の課題を考える』

～あなたが舟橋村で取り組んでほしいことは何ですか?～

プログラム：

講演「市町村における総合計画の役割と住民参画の意義」

講演「協働型まちづくりの現状」

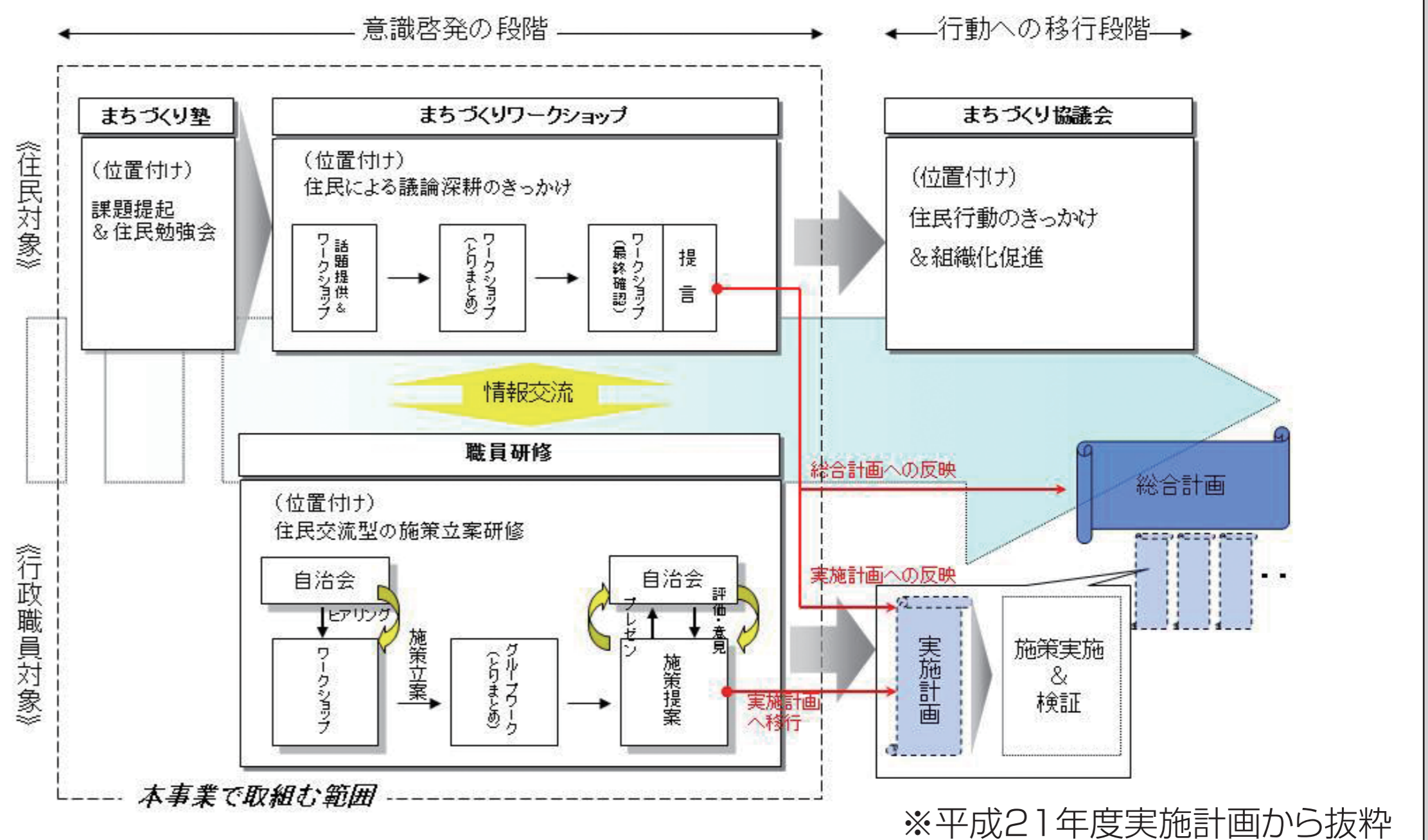


成果

『「第4次総合計画」策定に向けた住民提言』がまとめられ、地域づくりへの住民意見が提示されるとともに、今回の狙い通り、地域が共有すべき課題が整理され、今後取り組むべきいくつかのテーマが抽出された。

(抽出テーマ例:近隣公園「オレンジパーク」の運用改善と市民参加、住民による舟橋村の魅力再発見と情報発信など)

交流型施策立案&組織育成スキームの構想



【舟橋村まちづくりワークショップ】

開催期間：平成21年1月～3月 隔週土曜日 10:00～16:00

参加者：舟橋村住民10名

運営方法：PCM(Project Cycle Management)手法の導入

ワークショップの運営手法には、国際協力の分野で広く一般的に用いられ、地域の問題から、組織内部の問題まで広く活用されるPCM手法を活用した。(協力:NPO法人 PCM Tokyo)

※PCMとは、現状の問題を特定、問題の原因を分析し、解決策を探り、その実行計画をプロジェクトとして形成するという、問題解決型の戦略的なアプローチをとるプロジェクト・マネジメント手法です。



舟橋村長への住民提言発表の様子

取りまとめられた提言は、ワークショップに参加した住民自らが村長に説明。懇談会では、活発な意見交換が行われた。

参加者のコメント

「楽しくて勉強になった」「舟橋の自然、住みやすさを実感した」「みんなで作る舟橋村になって、未来へ向かっていきたい」などの感想や意見。また、「提言書の実行できる部分から取組んで欲しい」「村民の意見を聞き、村民を大切にする村政を」などといった要望や日頃の生活で感じる様々な思いが寄せられた。